



Just keep going!

～前進あるのみ！～

自ら行動しよう、愛と笑顔が溢れる郡山の未来のために

特別対談

【郡山地方広域消防組合】

柳沼 邦彦 様
吉田 武司 様

【郡山市社会福祉協議会】

中山昇一様
原田博之様



久保田雄大理事長(以下、久保

田中：本日はお忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。災害が増えています。お集まりいただき、昨今、お集まりいただきました郡山地方広域消防組合様と郡山市社会福祉協議会様と協力して今後の活動を行っていきたくと考えており、「災害時にどのように地域を支えあうか」をテーマに対談を行いたいと思います。



それではまずそれぞれの活動内容をご紹介します。
ただきたいと思います。

郡山地方広域消防組合以下、郡山消防はい、ありがとうございます。私達郡山地方広域消防組合は郡山市・田村市・田村郡三春町及び小野町の二市二町によつて組織された一部事務組合(消防組合)であり、消防本部は郡山市に置かれています。福島県内十二消防本部の一つとして、管内の安全安心を守っています。昨今では新型コロナウイルスの影響により、救急医療への負担が高まっていることからなかなか搬送先の病院が決まらない状況が多々あります。郡山消防本部としましては救急医療に対する負担を出来るだけ軽減させるために、少しの注意や心がけて救急車を呼ぶような状況を未然に防ぐ「予防救急に力を入れていきます。また救急件数については年々増加傾向で、救急車が到着するまでに平均十一分かかりますが、重症事案であれば時間がかかる程助かる確率は限りなく低くなつてしまいます。そのため、多くの方々に応急手当の方法を学んでいただくとともに周りの皆様のご協力を得て、AEDの設置に「ご協力いただきたい」と思います。久保田：ありがとうございました。続きまして郡山市社会福祉協議会様よろしくお願いいたします。

郡山市社会福祉協議会(以下、郡山市社協)・本日は貴重なお時間をつくっていただきありがとうございます。まず私達郡山市社会福祉協議会は、下部組織として十三の地区社会福祉協議会を置いています。旧市内には郡山地区社会福祉協議会という組織があり、さらに細分化し二十六か所の支部社会福祉協議会というものがあります。行政区単位で十二か所、支部単位で二十六か所の合わせて三十八か所の社会福祉協議会があり、住民の方々の参加協力をいただき成り立つ組織になっています。活動としては、令和四年度を初年度とする『第五次地域福祉活動計画』に基づき、『誰一人取り残されない安全・安心な地域共生のまち郡山』を基本理念に地域福祉活動を中心に行っており、いきいきサロンや食事会などを各地域で行っています。昨今のコロナウィルスの状況も鑑み食事を提供する活動は難しいので、配食サービスやテイクアウト形式で行っています。その他に茶話会というお茶会を開く活動を行い公民館や個人のお宅を利用して、高齢者の方々が一人で自宅に閉じこもらないようにする活動をしております。そういった地域づくりをしながら、災害時に見守りができるという体制を作らせていただく等の目的もあります。災害



時に特別な動きをするのではなく、日頃から見守つたうえで、延長線上に災害が起こった際に対応できるように日ごろの活動を大切に、災害時の対応も考えつつ、地域の方と一緒に地域づくりに取り組んでいきます。



久保田

この新型コロナウイルスのまん延している中で動きづらいつつあると思いますが、様々な工夫をされながらそれぞれの場面で活動されていることが分かりました。ありがとうございます。

続きまして、冒頭話をしたように、災害が増えている中で活動をされていると思いますが、災害が起きた時に足りないことや望むべき仕組みなどがありましたらお聞きしたいと思います。

郡山市社協 振り返ると、大災害として阪神淡路大震災が契機となり、ボランティア元年という言葉ができました。以前からボランティア活動はありましたが、災害に対する意識がボランティアに対する意識が高まってきたこともありボランティア元年と捉えています。災害が起きた時には郡山市と協働して、郡山市は大災害が起きると災害対策本部を設置し、その一員として社会福祉協議会も一緒に活動をしています。今回は三月十六日に発生した宮城・福島県沖地震で災害対策本部が設置され、翌日には災害ボランティアセンターを設置しました。翌日から動き出すには日頃からのボランティアを行う方がいないと難しいので、事前にボランティアの方々には登録をしていたいただき、災害が起きた時にはボランティア活動ができるようにマッチングし、活動をいただいています。しかし、どうしてもボランティアの担

手が集まらないというのが現状であり、是非郡山青年会議所のマンパワーを活用いただき、災害が起きる前に青年会議所のメンバーからも登録をしていただけると、災害時の活動でより多くの人を助けることに繋げていけるので、この機会にこういった活動にも参画をしていただけると幸いです。

久保田

ありがとうございます。私達郡山青年会議所としても今回の地震が起きてそれぞれの会社であつたり、家庭でも被害がありました。災害時に動けるメンバーも何人かおりましたがどのよう動くべきか分からないこともあり、助けを求める方は数多くいた状況で、災害時の助けを求める声に対して無力でした。今程ありました郡山市社会福祉協議会様と連携することで、この問題も解決することができるとはいいと思います。続きまして、郡山地方広域消防組合様にも伺いたいと思います。

郡山消防

私達には四百十四名の職員がおりますが大規模災害の発生時は、私達だけでは限界があります。三、二の様な複合的な大災害は前例がなく対処が難しいこともあり、沿岸部の方など多くの方が管内に避難してこられたが、その際に避難者の方々の放射線を測るスクリーニングを消防で担当しましたが、初めての活動で大変苦労した記憶があります。これらの教訓から装備や専門的な知識や人材を充実させてきました。一方で令和元年の東日本台風では市民に事前に避難を再三に渡り促していましたが、自身に災害がふりかかることになるとは思っていなかったなどの認識の甘さが感じられ浸水地域から多くの救助要請がありました。また、災害時には三分の非常食を日頃から準備していただき、高齢者になりますと薬を常用している方もいるので、それらの置き場所の把握や飲料水

の確保を行ってください。大規模災害時には消防がすぐに駆け付けられないこともあり、特に「自助」「共助」が重要になります。全国で



久保田

ありがとうございます。過去の災害から学びを得て、新たな取り組みをされていることが分かりました。私の理事長所信にも記載させていた

だいていますが、災害を止めることはできませんが、備えることができると思っており、それが大切だと考えております。郡山青年会議所としても今年は防災事業で災害への備えの重要性を学び、深めることができるような事業を実施したいと思っておりますので、相互に協力体制を築ければと思います。続きまして新型コロナウイルスのまん延している状況下でボランティアの募集人数が制限されております。このコロナ禍で災害が起きた際に想定される問題点や今までの災害時の違いなどがありましたらお聞きしたいと思っております。

郡山市社協

新型コロナウイルスがまん延するまで、例えば十一年前の東日本大震災では全国の社会福祉協議会、各ブロックから応援をいただくことができました。しかしこのコロナ禍の状況下では県をまたぐことができないため、県内のみでの応援に対応するなど、範囲が狭まってしまっており、県内で感染が爆発的に増加してしまえば、市町村を超えることも難しくなってくることも想定されるため、自分たちの地域、自分たちのまちを自分たちで守りましょうとい

う意識が必要であると感じます。久保田 ありがとうございます。やはりこの状況下でなかなか県外にも移動しづらく、県内の方々からはこちらにも来ることが難しい状況の中で、様々な工夫をする必要があるのではないかと感じます。続きまして郡山地方広域消防組合様お願いしま

郡山消防

す。

久保田

地震や水災が発生した際、また発生が予想される際の避難について、新型コロナウイルスがまん延する以前は体育館や公民館などにみんな避難していたところを、昨今では密閉した空間を避ける必要があることから、車中避難等を選択しなるべく密にならないような取り組みをしていただいております。しかし、車中避難の場合、狭い空間で同じ姿勢でいることでエコノミークラス症候群の危険もあります。この場合は少し外で体を動かすなど対策が必要で、また高齢者の方はお手洗いが近くなるため水分を取らないというケースもありますが、水分を十分に補給していただくことは重要ですので、水分は多めにとっていただければと思います。

郡山市社協

ありがとうございます。続きまして、今後より良いまちづくりを行っていくにあたり、本日集まっていたた皆様同士がお互いの強みを活かしながら、何ができ、何を生み出しているのかを話していきたいと思

久保田

ありがとうございます。防災協定も複数の団体様と結ばせていただいております。そういった団体が増えることは非常にありがたいと考えています。是非前向きに進めさせていただければと思います。消防組合様はいかがでしょうか。

郡山消防

S.D.G.sの理念を基に私達が推進

している、誰一人とり残さない消防の実現を目指して聴覚や発話等の障がいにより音声通話が困難な方がスマートフォン等で119番通報できるNet119というシステムを導入しています。またこのような障がいをお持ちの方々に対して現場でも対応できるように職員が手話を学ぶという取り組みも行っています。Net119の利用には事前登録が必要ですので皆様にもご協力いただきPRもしていただければと思います。また広報手段としてホームページやSNS、YouTubeを活用して動画など様々な情報発信を行っておりますので是非皆様からの周知もお願いできればと思います。

久保田

次は話題を変えまして、それぞれの団体様での女性の方の活躍については是非お聞きしたいと思っています。本年郡山青年会議所としても誰もが活躍できる環境を目指して様々な取り組みを行っております。郡山市社会福祉協議会では多くの女性が活躍されているイメージがありますが、何か心がけていること、取り組みなどありましたらお聞きしたいと思っています。

郡山市社協職員



性の割合は約八割くらいになりまして、事務の他に保育所やヘルパーなどの女性が活躍しやすい職場となつてい

久保田

に女性が多い職場となつています。女性の方が活躍しやすい環境を整えていることから職員の女性の割合が多

郡山消防

いんです。続きまして、消防組合様で何か取り組みはありますか。消防の分野ではまだまだ女性が少ないということが日本の消防全体の課題であります。消防は自治体単位のため組織規模が小さく、一人が行

う業務内容が多岐にわたるため男性の採用が多くなつてしまう傾向があります。各消防では規模を大きくする広域化や業務の専門性を高める取り組みを行っております。例えば女性の場合であれば救急救命士という資格を持つて女性の目線に対応することで活躍できる場もあります。また、消防行政の基本である予防の分野では女性のきめ細やかさを活かして活動している職員もたくさんおります。こういった女性でも活躍できる分野が消防にはたくさんあるということをもつとPRし、消防が職業選択の一つになるよう取り組んでいきたいと思

久保田

消防組合様としても、業務的に女性を増やすことがなかなか難しい中で様々な取り組みを行つていくことがわかりました。ありがとうございます。私達郡山青年会議所としても家庭を持つている世帯の方がより青年会議所の活動に取り組みやすくなるようにWEB会議の活用や育児や家事などに積極的に参加できる取り組みを今年から始めていくところなんです。それでは、次に子どもの防災教育についてお話を聞きたいと思

郡山消防

新型コロナウイルスのまん延前は小学生をはじめ年間五千人程の方が消防署見学に来ていただいておりますが、現在はこれができるなくなつてしまいました。そういった方々への発信をどのように行うかを考え、YouTube動画で消防署見学を行えるように一昨年度から取り組んでいます。今年度からは、これまで運用していたFacebookとYouTubeに加えて、二十代前半などの若い世代、特に女性の方の利用が多いInstagramを本年の四月から始めています。このような様々な媒体を効果的に組み合わせながら広報活動を行つてまいります。

久保田ありがとうございます。最後に郡山

郡山消防

青年会議所に何かご要望があればお聞きしたいと思

久保田

ありがとうございます。企業向けについては一般的にも一堂に会して説明できる機会が減少してきているかと思

郡山市社協

現在「フードドライブ」という事業で、各家庭で余つてい

久保田

をさせていただきますので情報提供をいただければと思

プロフィール

郡山地方広域消防組合

郡山市、田村市、三春町、小野町の管内に十八か所の消防署や基幹分署を配置し、郡山市内の災害対応、予防行政を担い、あらゆる災害に柔軟、的確に対応し、災害につながる危険性を未然に防ぎ、地域の安全の為、地域の防災教育なども行っています。



郡山地方広域消防組合
公式Instagram

郡山市社会福祉協議会

郡山市民の生活が向上するように笑顔になれるように支援・活動しています。自分たちのまちをどういう住みやすい環境にしたいかをテーマに住民の方をはじめ、福祉施設や企業団体と寄り添い話し合いながら地域づくりを行っています。



郡山市社会福祉協議会
QRコード

新年会

一月十七日(月)郡山ビューホテルにて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二二年度新年会」が開催されました。

はじめに、郡山青年会議所理事長久保田雄大君が新年のご挨拶とともに、本年度スローガンである「Just keep going!」前進あるのみ!自ら行動しよう、愛と笑顔が溢れる郡山の未来のために」へ込めた郡山への熱い想いをご来場いただいたご来賓の皆様へ宣言し、愛と笑顔が溢れる郡山の未来を創造するため



本年度は新型コロナウイルス感染症対策を万全に行い、ソーシャルディスタンスを保ちながらの新しい形の新年会の開催となりました。郡山青年会議所メンバーも全員しっかりとマスク着用を行い、消毒と検温を行うことで新年会を実地で開催することができ、ご来賓の方々と各地青年会議所メンバー、OB会会員の皆様



との貴重な交流の場とすることもできました。年始のご多用中にも関わらず、ご来賓の方々、各地青年会議所メンバー、郡山青年会議所OB会会員の皆様におきましては郡山青年会議所の新年会にお越しいただき誠にありがとうございました。



京都会議

一月二十一日(金)〜一月二十三日(日)にかけて「公益社団法人日本青年会議所二〇二二年度京都会議」が開催されました。本年は新型コロナウイルス感染症対策の為、WEB配信を中心とした開催となり、メンバー各自での視聴を行う形での参加となりました。

二十一日、二十二日は主に配信で各種フォーラムやセミナーが開催されました。郡山青年会議所からも多くのメンバーが日本青年会議所の各委員会へ出向し、全国のメンバーへ多くの学びと気づきを得る機会を提供しました。



【組織改革委員会】
副委員長 大槻 俊介 君
小幹事 新田 義幸 君
委員 圓谷 紀幸 君

【まちのレジリエンス確立委員会】
委員 佐久間悠治 君

また二十三日には新年式典が開催され公益社団法人日本青年会議所本年度会頭である中島士会頭の所信演説が行われ、「愛が、希望に変えていく。」のスローガンの元、本年の各地青年会議所の運動・活動指針を発表され



ました。世界中での貧困などの現実問題や問題を解決できるJCという存在を改めて力説され、「不安を希望に変えるその一步を踏み出しましょう」という力強い言葉で全国のメンバーを鼓舞されました。

各ファンクションを通じて、青年会議所・企業・地域等が抱える様々な問題を解決へ導いていくための指標が示され、二〇二二年度京都会議のスローガンである「その不安を、希望に変える。」ための学びや気づきを得る機会となりました。



一月例会定時総会

一月二十六日(水)公益社団法人郡山青年会議所一月例会・定時総会が郡山ビューホテルアネックスで開催されました。

例会では、二〇二二年度理事長である久保田雄大君が今年度の運動・活動にかける想いを述べられました。

続いて会務報告、出向者報告にて各委員長、各出向者より本年度の決意について発表があり、その後、新入会員への入会許可書の授与が行われました。

その後開催された一月定時総会では、議長に鈴木章弘君、副議長に佐藤広幸君が就任し、議事が滞りなく進行され、すべての議事が無事承認されました。



その後、理事長久保田雄大君より、二〇二二年度理事長である柳沼勝恵君に感謝状が贈呈され、直前理事長として二〇二一年度の御礼を述べられました。

本年度の最初の例会・定時総会ということで新入会員を代表してお二人から感想や本年度の運動・活動への決意をお聞きました。

高橋祐樹君「準備・設営を通して一月例会・定時総会に出席することで、一人ひとりの熱い思いが会を発展させ、準備を十分に行うこ



とで会が成功すると感じました。入会許可書授与式では自身の熱い思いを言葉にしたことで、JCの一員としての自覚と責任を再認識致しました。」

渡邊千代子君「初めての例会・定時総

会の設えをさせていただき、総務委員長の仰る『凡事徹底』の大切さの一端に触れさせていただきました。会員の皆様にも改めてご挨拶させていただきます、身の引き締まる思いでございます。引き続き今年一年、どうぞよろしくお願いいたします。」

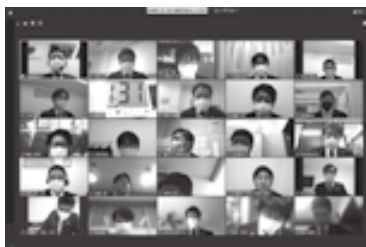
若いメンバーからも力強い決意や想いが生まれた一月例会・一月定時総会となりました。



二月例会

二月二十一日(月)公益社団法人郡山青年会議所二月例会がWEB例会にて開催されました。

新型コロナウイルス感染症拡大対策により、インターネット回線を用いた設営での開催となりました。



理事長挨拶では、事業や会議の開催が難航している中で、新たな取り組みとしてメンバーの家族やお子様理解を得ながらJC活動をしていくことでより多くのメンバーが活躍できることを目指した「育LOM」についてのお話がありました。この困難な状況でも時代に合わせて組織をより良く変化させていき前に進んでいくことの必要性を説明いただきました。

その後の委員会報告や出向者報告ではこの日までに行われていた各種事業や活動の他、一月の京都会議等のセミナーに関するアンケートの募集なども行われました。

また例会後には、新型コロナウイルスのまん延防止重点措置対策の一部として営業時間の短縮など困難な状況にある飲食店を経営するメンバーから、各お店のPR活動が行われ各店舗にて様々な取り組みやお勧めの商品などのご紹介があり、多くのメンバーへ情報共有がされました。

議案書セミナー

二月二十四日(木)議案書セミナーがWEBにて開催されました。

今回は二年目以上所属しているメンバーを対象に議案書の作成時に気を付けていただくポイントや予算書の作成方法等を事務局からセミナー形式で学べる機会として開催されました。

本年度は新たな取り組みとして議案書に事業検証時の指標の目安として「KPI」(重要業績評価指数)が設けられており、各委員会の委員長を中心に多くの参加者が議案書セミナーに参加されました。

セミナーを通して今後の各種議案書をさらにより良きものに昇華し、地域をより良くする事業展開を行うことができる重要なセミナーとして大変多くの学びを得る機会となりました。



新入会員オリエンテーション並びに 現役会員向けセミナー

三月十二日(土)公益社団法人郡山青年会議所の新入会員オリエンテーション並びに現役会員向けセミナーが郡山労働福祉会館にて開催されました。

本年は開催日や開催場所を変更し、新型コロナウイルス感染症対策を十分に施したうえでの実施となりました。

開校式では久保田雄大理事長から新入会員へ貴重な学びの機会としてほしいというメッセージが述べられ、新入会員全員に良い緊張感のある中で各ファンクションが進んでいきました。

基礎研修では金山慶一監事から「JCの基本理念、JC運動、三信条について」、新田義幸副理事長から「公益社団法人郡山青年会議所の歴史と伝統並びにその活動について」、矢吹瞬専務理事から「用語・定款・諸規定について」、芝田銀平副理事長から「公益社団法人日本青年会議所並びに出向について」という青年会議所の根幹である歴史や今後の基礎となる講演が行われました。



その後は事務局、財政局、未来創造室、指導力開発室、各委員会の説明が行われ、新入会員に向けてそれぞれの役割を分かりやすく説明が行われました。また二

〇二一年度最優秀JAYCEE賞の高橋章太君からは新入会員に向けて自身の体験等を交えたこれからの活動についての講演がありました。

現役会員向けセミナーでは講師に郡



山青年会議所OBであり株式会社開成測量設計社代表取締役今野辰哉先輩をお招きし、ご自身の現役時代のご活躍や経験を交えながら、JC運動・活動が卒業後仕事にどのように役立っているのかをご講演いただきました。グループワークなども取り入れていただくことでより分かりやすく貴重な学びの機会となりました。

その後は新入会員のみを対象とした久保田雄大理事長による理事長講話が行われ、新入会員へ貴重な体験や知識をお話いただき、多くを語り合える貴重な機会となりました。



最後のファンクションでは新入会員特別研修として新入会員が各自ランダムで流行りのお題をいただき、三分間スピーチを行いました。三分間会員一同の前で話すという慣れない条件の中、各新入会員がそれぞれにユーモアのあるスピーチを行い、三分間という決められた時間の中で話す難しさや話し方等を体感できる機会となりました。その後のJC宣言文朗読並びに綱領唱和では審査員を金山慶一監事、芝田銀平副理事長、新田義幸副理事長に務めていただき、新入会員全員がこの日までしっかりと準備してきたことで全員合格となり特別研修を締めることができました。

今回参加した新入会員の土屋繁太郎君は「久保田雄大理事長、今野辰哉先輩をはじめとする諸先輩方から想い

のこもったお話を頂戴し、郡山JCメンバーの皆さんの温かさや魅力、同期の絆を感じることできた大変収穫のある一日になりました。このような機会をいただき心より感謝申し上げます。」

紀乃知佳君からは「今回オリエンテーションを実地で開催していただいたことはとても有難く、緊張感や熱量や温かさを先輩方や同期メンバーと共有できたことをうれしく思います。今回得た学びの機会を活かし今後の活動に励みます。」といった感想をいただきました。

新入会員にとって非常に実りのある新入会員オリエンテーションとなりました。



三月例会

三月二十八日(月)公益社団法人郡山青年会議所三月例会が郡山市郡山公会堂にて開催されました。



三月例会では例会開催に先立って、久保田雄大理事長体制の本年の新たな試みとなる「育LOM」について、公益社団法人日本青年会議所組織改革委員会に出向されている新田義幸副理事長が講師を務め、育LOMセミナーが開催されました。メンバーのご家族や会社の理解を得ながら、誰もが活躍できる組織を構築していくことで、このまちをより良く変えることに繋がっていく新たな取り組みとして、メンバー一同真剣に学ぶ機会となりました。

その後の三月例会では冒頭の久保田雄大理事長のご挨拶に三月十六日に起きた福島県沖地震やロシア関連の国際的な影響による困難な状況が続いている今、我々がどのような気構えで活動していくか、そしてこの困難な状況下でのメンバーの活動への感謝を述べられました。

理事長挨拶後は各委員会の会務報告、出向者による報告が行われ、三月も終わりに差し掛かり、各委員会の活動や各出向先の活動がより一層動き出していることが報告がメンバーから発信されました。

さらに例会の終了後は新入会員オリエンテーションに参加して多くの成長の機会を経た新入会員メンバーからの決意表明が行われました。それぞれのメンバーが各自の目標に向けて、この郡山青年会議所の活動・運動を通して成長しこの郡山をけん引していくリーダーになれるよう力強い宣言で締めくくられました。

久米賞・百合子賞 第一回実行委員会

四月十三日(水)郡山市役所本庁舎五階教育委員会室にて「第六十一回久米賞・百合子賞」第一回実行委員会が開催されました。

冒頭実行委員長である久保田雄大理事長からご挨拶があり、新型コロナウイルスの感染が拡大しているなか、役員の方々のご協力により実行委員会が開催されたことへの感謝を述べられ、本年度の久米賞・百合子賞が一人でも多くの子どもたちの文学への関心をもっていたただく機会となることを祈念されました。

会議では開催要領や実行委員会規約、



募集方法・期間、審査委員、年間スケジュール、予算など、年間の運営方針について協議が行われました。伝統ある久米賞・百合子賞が本年より一層子どもたちの様々な想いを発信できる機会となることを祈念され、閉会となりました。

四月例会並びにチェリーパーティー

四月十五日(金)公益社団法人郡山青年会議所二〇二二年度四月例会並びにチェリーパーティーが郡山モノリスにて開催されました。冒頭の理事長挨拶では久保田雄大理事長からチェリーパーティーが始まった歴史の話があり、三年ぶりに実施となったOB会会員の先輩方との交流の場がどのように始まり、どのような歴史があったか述べられました。



その後は各委員会からの会務報告、各出向者からの出向者報告があり、メンバーへの情報共有が行われました。

続いて、二年ぶりのチェリーパーティーが開催され、多くの現役メンバーが積極的にOB会会員の先輩方と会話を通して、様々な教えをいただく機会と

なり、各テーブルにてOB諸先輩方との会話が花が咲き、大変有意義な時間となりました。

今回の事業を担当されました会員開発委員会の堀川武尊副委員長からは「二年ぶりのチェリーパーティーとなり、OB諸先輩方との懇親の場を設けることができて、会員開発委員会としても良かったです。」

会員開発委員会の佐藤研一委員からは「感染症対策を万全に、一人ひとりが楽しむことができたと思います。細かい反省点は次回にしっかりと引き継げるようにしていきます。」という感想をいただき、メンバーにとって、多くの気づきや学びを得る事業となりました。



地域アンケート

一月十五日(土)から二月十五日(火)の
一か月間第一回の地域アンケート(こ
おりやまの声ポケット)を開催させてい
たきました。ご協力いただきました皆様
ありがとうございました。本年は今まで
以上に地域に寄り添い共感を得られる
ような事業を実施、発信していくため多
くの皆様からアンケート形式で、郡山青
年会議所について「や」どんな事業を行っ
てほしいか等をお聞きさせていただきました
しました。

郡山青年会議所についてのご質問で
は「今後も事業に参加したい」という声
や「知人・友人等に紹介したい」という声
す」という声も全体の六割を超える結果
となり多くのご賛同をいただいていること
がわかりました。しかし反対に四割弱の
方々へはまだまだご賛同をいただけてい
ない部分もある結果が出たこともあり、
回答を参考にし、より共感をいただい
けるような運動・発信を目指していき
たいと思います。

今後の青少年教育に希望する取り組
みについては、郷土愛や道徳心を育む教
育面や運動不足の子どものための運動促
進を行うスポーツ面の取り組みの声が多
くありました。こどもの教育の環境につ
いての取り組みについては、多くは子
どもの遊べる場所の増設や整備といった
施設の充実を望む声や、よりクリエイ
ティブな人材の育成を行いやすい環境
整備を望む声が多くありました。

今後のまちづくりに希望する取り組
みについても買い物や遊べる場所、公共
機関の増設などの施設の拡充を望む声
は多くあり、より郡山を住みやすいと

思ってもらえるようなまちづくりや魅
力をアピールしてほしいという声があ
りました。

こういった各種ご要望の声がある中
で、私達郡山青年会議所へ応援のお言葉
も数多くあり、青年団体だからこそでき
る、若い世代で柔軟性のある知恵を出し
て魅力のあるまちづくりや活動を行っ
てほしいという声をいただくことができ
ました。

今回の結果を踏まえ、六月から第二回
地域アンケートを開催させていただく予
定となっております。より一層地域のた
め、郡山のために共感をいただける活動
を目指して、本アンケートを開催いたし
ますので、是非皆様第二回目のアンケ
ーのご協力もよろしくお願いいたしま
す。



NO・605号

●発行所事務局 福島県郡山市中町5-17 中町スペース3F 電話024-932-2289

●発行責任者/理事長 久保田雄大

●編集責任者/広報委員会委員長 武田 淳

※無断転載禁止



育LOM取り組みについて



日本は戦後の高度経済成長以降、主に男性が働き、専業主婦の女性が家庭を支える構図を基本とし、あらゆる社会のシステムがそれを基に発展してきました。そのような中、青年会議所も年々大きな発展を遂げてきました。しかし、近年は性別に関係なく家事、育児をすることがあたりまえになってきています。そのような環境下で、より良い運動を持続的に展開し、より発展していくためにも、今まで以上に誰もが活躍できる組織作りが求められています。

本年度、郡山青年会議所では、日本青年会議所が推進する「育LOM」に積極的に取り組んでいきます。

「育LOM」とは??

育児世代であるJCメンバーが家庭や仕事、JC活動を平行しながらも活躍できる子育て支援等を積極的に行なうLOM(各地青年会議所)を指します。様々なライフステージにあるメンバーが活躍できる組織環境の構築を通じて、誰もが活躍できる社会の実現を目指します。

具体的に何をやるの??

育LOM5つの取り組みのうち、郡山青年会議所としてまずは下記の3つに取り組んでいきます。

①Family Day

(LOM全体でJC活動を休む日を設定し、家族のための一日をつくる)

②スマート会議

(WEB会議の導入、時短会議の設定、会議終了時刻の遵守、議事進行方法の工夫、事前準備の徹底)

③JCに対する家族と会社の理解を促進する事業や取り組みの創出

本年度は女性会員が2名入会し、計3名となりました。また、5月には会員のご家族を交えての交流会「5月例会並びにSDGs×郡山青年会議所×こおりやま謎解きウォークラリー」の開催も計画しております。周りの方々に私たちの運動への理解をより深めてもらい、そしてメンバー同士はお互いの多様なライフステージを理解、尊重することで誰もが活躍できる組織構築を目指して「育LOM」に丸となって取り組んでいきます。

